

---

# 仇。

トモミチ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

仇。

### 【ZPDF】

Z5390C

### 【作者名】

トモミチ

### 【あらすじ】

達磨と師匠のやりとり。見返りが欲しいから親切をするが、実らなかつた話。

いつの日だったか覚えていないが、林檎売りの老婆から聞いた話。

ある階段の隅に、黒い固まりが達磨のように座つていたらしい。

その黒い固まりは、それはそれは忠実なるクリスチャンであつたそうで、首に提げたやたら大きな十字架を握り締め、階段の隅で一人、ぼそぼそ何か咳いていた。

階段を上つた所には大きな寺院があり、それはそれは忠実な仏教徒が暮らしていたのだが、達磨のクリスチヤンは知つてか知らずか、その階段に住み着いて、昼間は何かを咳き、日が暮れればまた達磨のように丸くなつて寝てしまうのである。そのせいで門下の僧達は階段を気味悪がつて上れなくなり、門上の僧達は階段を気味悪がつて下りれなくなつてしまつた。

夜の間使いに出した弟子達が帰つて来ないのを不思議に思った師匠が、自ら階段を下りていくと、階段の丁度中段あたりに、黒い達磨のよつよつな固まりが隅に置かれているのを見つけた。

やはり彼は弟子を従えるに相応しい師匠であつた。隅に張りついている達磨に近づくな否や、懷から翡翠の数珠を取り出して、達磨の膝に置いてこつ言つた。

「釈迦様ならば、あなたにこのような事をさせないであらう。お田を覚ましなされ。」

延々咳いていた声を止め、達磨は顔を上げた。長い前髪に長い髪。僧達が梯子を持ち出す理由がわからなくも無く、人間、不審な物は

極力避けて通りのところへ生きてくるといつ事實を改めて思い知らされた。

膝に置かれた数珠をまじまじと見つめた達磨は、自分が握り締めている十字架に目を向けた。その姿を目の前で見る師匠は、なんとなく、紫陽花の葉の上を這つ蝶を想像した。

達磨は、見つめていた十字架に数珠をつまみ括りつけた。

師匠は困惑した。

「そのような」と、釈迦様に「無礼です」

聞く耳持たず、達磨は顔を上げると師匠に言った。

「無理にどうやらかを決める必要はないのだ。この翡翠は高く売れるだろう。」

言つなり達磨は立ち上がり、商店の方へ歩きだした。

師匠は口を開けたまま、その背中を見送る事しかできなかつた、と  
さ。

親切が仇になつた瞬間である。

(後書き)

親切が仇になることがありますよね。最近自分が体験した出来事がモチーフ。ちょっと古文っぽく書いてみました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5390c/>

---

仇。

2010年10月18日09時34分発行